

東海テレビこの1年の取り組み

2016



はじめに



代表取締役社長

内田 優

本報告は2015年7月から1年にわたり、放送倫理意識の向上、岩手県をはじめ東北地方の被災地支援、放送事業を通じた社会貢献など、弊社で実施してきた取り組みについて、皆様にご報告するために作成致しました。2011年8月4日の「ピーかんテレビ不適切テロップ問題」（ピーかん問題）から5年が経過しました。「ピーかん問題」を知らない世代も増えていますが、重大な過ちを決して風化させない決意のもと、コンプライアンスの推進や放送倫理向上に向けた取り組みを継続し、信頼回復に取り組んでまいります。

放送倫理向上に向けては、外部講師を招いた全社研修会や勉強会を継続的に開催しています。「放送倫理を考える日」と定めた8月4日の全社集会では、各部署からヒヤリ・ハット事案を中心に報告をし、再発防止策の情報を共有しました。また、3年ぶりに全従業員とグループ会社、協力会社スタッフを対象にしたアンケートを実施し「ピーかん問題」で浮き彫りになった課題について再点検を図るなど実効性のある取り組みを推し進めています。

各部長で組織する「コンプライアンス責任者会議」では、放送倫理やコンプライアンス面での社内チェック、

情報共有を図っております。役員を中心に組織する「コンプライアンス委員会」では、弊社を含めグループ会社における業務の適正を維持することを主目的に開催しました。また、第三者の視点からアドバイスをいただいています「オンブズ東海」は年4回委員会を開催し、コンプライアンスに関する事例や放送倫理活動を中心に詳しく報告しました。

弊社は、地上波ローカル局として、地域の今を伝える報道番組「みんなのニュースOne」、情報番組「スイッチ!」「スタイルプラス」、娯楽番組「ぐっさん家」をレギュラーで放送しています。ぜひとも皆様の生活に役立てていただければと考えています。また、52年に亘って全国の皆様にお届けして参りました「昼のドラマ」が今年3月で終了し、4月から新たに土曜日の夜に「オトナの土ドラ」を開始する節目の年でもありました。

これからも放送の公共性・公益性を自覚し、正確かつ有益な情報をいち早く発信することで「愛され、信頼される地域最良のテレビ局」の実現を目指してまいります。視聴者はじめ関係者の皆さまには、今後も弊社の活動に対し、一層のご支援、叱咤激励をいただきますよう、お願い申し上げます。

<ビジョン> 愛され、信頼される地域最良のテレビ局

- ### <基本理念>
1. 放送の持つ公共性、公益性を深く自覚し、社会的使命感と高い倫理観を持って職務を遂行する。
 1. ジャーナリズムを堅持し、表現の自由を守り、正確で迅速な報道を通じて視聴者の知る権利にこたえる。
 1. 良質な番組を制作、イベントや事業を通じて、市民生活に役立つ情報と健全な娯楽を提供し、地域文化の向上、福祉の増進に努める。
 1. ライフラインとしての使命を自覚し、放送継続を最優先に、地域の安全・安心に寄与する。
 1. 放送局として自主・自立を守るため経営の安定を図る。

- ### <基本方針>
1. 安全な制作体制のもと、自社制作番組を充実させ積極的に情報発信するとともに、視聴率の強化に努める。
 1. コンプライアンスの推進と放送倫理教育を徹底した上で、プロフェッショナルな放送人の育成を進める。
 1. 東海テレビ、グループ会社、外部スタッフのコミュニケーションを密にし、活力ある、行動し、挑戦する職場作りに努める。
 1. 開局60周年に向け、会社のブランド力向上を目指す。
 1. 災害時の放送事業継続のため、放送計画案を徹底させるとともに、設備等の強化を図る。
 1. 震災被災地への支援を継続する。
 1. 大型設備投資をはじめとする支出と総収入を精査し、体質強化を図る。

C O N T E N T S

01	はじめに	11	地域への貢献
02	ビジョン・基本理念・基本方針	15	皆様のご意見を番組づくりに
03	コンプライアンスや放送倫理の意識向上に向けた取り組み	16	第三者意見 II
06	「再生の取り組み」アンケート 概要	17	この1年の主な取り組み
07	東日本大震災・被災地支援の取り組み	18	おわりに
10	第三者意見 I		

コンプライアンスや放送倫理の意識向上に向けた取り組み

5年前の「ピーかん問題」以来、東海テレビでは、コンプライアンス、放送倫理を身に付けた放送人を育成するため、研修や勉強会を設けています。

1. 放送倫理・各研修会

平成27年度 放送倫理を考える全社集会

「ピーかん問題」を起こした8月4日を「放送倫理を考える日」と定めています。昨年の「放送倫理を考える日」の全社集会では、第一部を各部署からの報告、第二部は「放送人研修会」という二部構成で開催し、東海テレビ役員・従業員のほか、協力会社スタッフなど合わせて330人が参加しました。

冒頭に内田社長から「『ピーかんテレビ不適切テロップ問題』を知らない世代が増えてきた。だからこそ、東海テレビで働く者にとって決して忘れてはならない“重い十字架”であるということを再認識することが、この集会の意義である」と挨拶がありました。

続いて、5つの部署からこの1年間のコンプライアンス、放送倫理の取り組みやミスから得た教訓などの報告をしました。

「放送人研修会」では慶應義塾大学の鈴木秀美教授から「放送の自主・自律を守るために」をテーマに講演していただきました。

その中で鈴木教授は「放送の自由を守るため、視聴者に対し誠実に接するべき」としていました。

参加者のアンケートには、「改めて事件を振り返り、真摯に仕事に取り組もうと思った」などの意見がありました。



鈴木秀美教授



放送倫理を考える全社集会



平成27年度下期放送人研修会

平成27年度 下期放送人研修会

番組審議室 梅村育宏

平成27年度下期の研修会は2月25日、フジテレビのコンプライアンス部門の部門長2人を講師に、「事例に学ぶ放送倫理」というテーマで開催、社内外の関係者281人が参加しました。講演では、番組作りの留意点として「法令」や「倫理観」に加え、「配慮」という考え方が新たに出てきた現状を踏まえ、「昔OK、今NG」という演出について数々の事例を通じて再確認しました。また、「テレビの常識が世間の非常識」として炎上するネット時代にテレビの存在意義、存在価値を深く考える機会となりました。

「失敗に学ぶ」「知識の鎧を身に着ける」といった言葉は、過去に数多くの番組を担当したお二人ならではの説得力ある金言でした。参加者からは「具体例が多く、分かりやすかった、“家族に見せて恥ずかしくない番組作り”を心掛けたい」「ネット時代における放送は気を付けなければいけないことが多いが、根っこは一人一人の倫理観に尽きると思う」「情報を共有し、萎縮することなく自ら考えることが大切と思った」などの感想が聞かれました。



平成28年度上期放送人研修会

平成28年度 上期放送人研修会

7月15日、放送人研修会を開催しました。講師は、著作権や番組制作に関連する法律や権利などの案件を中心に組み込まれている中川達也弁護士です。研修会は、午後と夜の2回に分けて開催し、番組制作部門の従業員や協力会社スタッフを中心に135名が出席しました。参加者からは事前に質問をアンケートで採り、著作権や人の映り込み、ネット情報の取扱いなど番組を制作するに当たって留意すべき法律的な問題について実例を交えて分かりやすく講義をしていただきました。

下請法研修会

下請代金支払遅延等防止法（下請法）の研修会を主に当社の従業員を対象に、8回にわたって開催しました。研修会では、下請法の対象取引先について、納品日や支払日など取引先と合意した内容を明記する“発注書”の書き方などを、当社の担当者が説明しました。また、当社のグループ会社3社に対しても、のべ4回の研修会を実施し、下請法の基本や発注書の書き方をあらためてチェックし、日常の業務に役立てることにしました。



下請法研修会

2. コンプライアンス体制

コンプライアンス責任者会議

2013年秋に立ち上げた「コンプライアンス責任者会議」は、原則3カ月に1回開催しています。コンプライアンス責任者を担う各部署長に加え、東海テレビのグループ会社の担当者も出席し、東海テレビグループ全体で情報の共有と意識の向上に努めているところです。各部であったトラブル案件やヒヤリ・ハット事例、さらには法律・法令の再確認など、放送局の業務に関連する様々なテーマを取り上げています。こうした事例を共有することで、再発の防止につなげるとともに、時々刻々と変化する放送を取り巻く社会環境に適正に対応できるよう、理解を深める場です。



コンプライアンス責任者会議

オンブズ東海

「オンブズ東海」は、当社の放送やイベントを監視し、視聴者の皆さまとの信頼関係構築に寄与することを目的に、2012年1月に発足した第三者機関で、年4回委員会を開催しています。委員会では、コンプライアンスに関する事例や放送倫理活動を中心に報告をし、3人の委員からは第三者の視点から適切なアドバイスをいただいています。



オンブズ東海委員会

コンプライアンス委員会

「コンプライアンス委員会」は、法令等を遵守し公正で誠実な企業活動を実践すること、また情報資産の安全かつ適正な運用管理を図ることを目的として当社とグループ会社の役員を中心に構成された組織です。昨年の5月に改正会社法が施行されグループ全体における業務の適正を確保するための体制の強化が求められることになりました。委員会では、顧問の弁護士からグループ会社における内部統制についてのレクチャーや、マイナンバー対応と社内規定の整備などをテーマに開催されました。



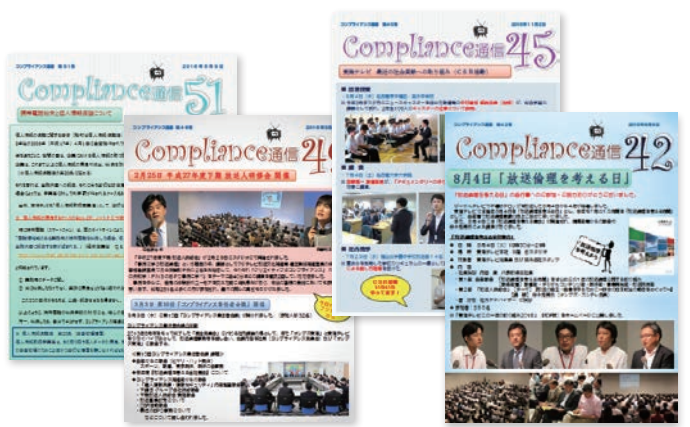
顧問 葛西良亮 弁護士



コンプライアンス委員会

コンプライアンス通信

コンプライアンスに関する様々な情報を、身近な話題として紹介するとともに、ヒヤリ・ハット事例などを全社で共有し、放送事故の防止や放送倫理意識の向上に役立てています。毎月1回、東海テレビの役員、従業員、協力会社スタッフなどにメールで配信しています。



コンプライアンス通信

「再生の取り組み」アンケート概要

東海テレビでは従業員、グループ会社の従業員、協力会社のスタッフなどを対象に、「再生の取り組みについてのアンケート」として意識調査を実施しました。

今年6月、従業員、グループ会社の従業員、協力会社のスタッフなどを対象に、「再生の取り組みについてのアンケート」として意識調査をしました。「ピーかん問題」から5年がたち、私たちの意識がどのように変化したのか、どのような課題が残っているのか調査しました。

▶ 調査サンプル 合計 446名

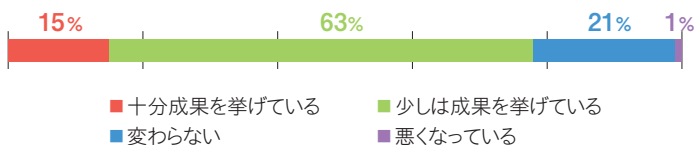
(東海テレビ従業員/グループ会社従業員/協力会社スタッフなど)

アンケートは全部で44の設問、このうち12は自由記述でした。この中から、主な設問・回答を紹介します。

「再生の取り組み」の評価について

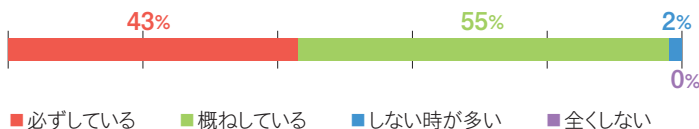
Q: 「ピーかん問題」を受けて設置された「東海テレビ放送再生委員会」が提言した、東海テレビの取り組みは成果を挙げていると思いますか。

- 提言
- 放送倫理の徹底と放送人教育の改善
 - 職場コミュニケーションの活性化
 - 契約の点検
 - コンプライアンス部局の設置
 - オンブズ東海の設置
 - 経営計画の見直し

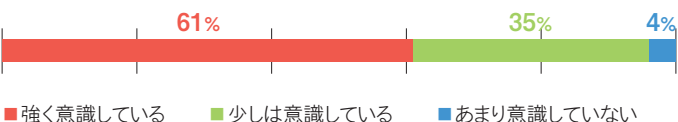


「ピーかん問題」で、私たちが定めた標語『放送倫理に大切なこと』について

Q: 「謙虚であること、おかしいことをおかしいと認める勇氣を持ち間違いはすぐに訂正する」は実行できているか。

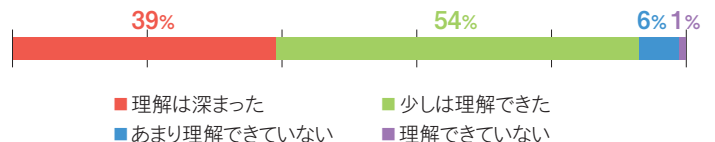


Q: 「放送する情報が正しいか人権侵害や差別にあたる内容になっていないかを十分に点検する」は実行しているか。



放送倫理・放送の公共性について

Q: 研修や勉強会などによって、放送倫理や放送の公共性についての理解は深まりましたか。

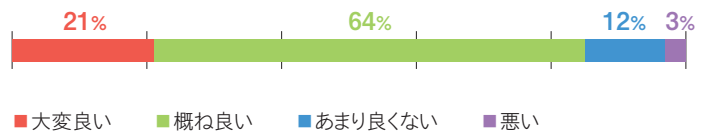


Q: 放送倫理と放送の公共性について日頃考えていることを書いてください。

- 社会性に照らし、偏った考え方をしていないか確認する。
- 自分の常識が世間の常識と思わないよう、様々な意見を聞き、取り入れている。
- 常に放送という公共性を持った仕事をしていることを意識し、行動している。
- 放送局が何を伝えたいかよりも、視聴者が何を求めているかにより重心を置くことが肝要だと言い聞かせている。
- 放送人であることより以前に“人”としてとして正しく振る舞えるか意識することが重要ではないか。

職場コミュニケーションについて

Q: 所属する部署内のコミュニケーションは良いと感じますか。



「ピーかん問題」以降、私たちは信頼回復に向けて再生に取り組みできました。回答者の8割近くが「十分もしくは少しは成果を挙げている」と評価しており、その一方で、まだ2割が「進んでいない」と評価しています。

さらに、再生を進めるにあたり、「まちがったこと認める勇氣」や「正しい放送、人権に配慮した放送」など公共性や倫理観を意識する必要がありますと考えています。

これからも、定期的なアンケート調査を実施し、従業員やスタッフの放送倫理・コンプライアンス意識の向上に活かしていきます。

東日本大震災・被災地支援の取り組み

東海テレビでは、岩手県をはじめとする被災地支援も重要な取り組みのひとつと位置付けています。これからも復興の支援となるよう被災地を見続けていきます。

1. 放送での東北支援の取り組み

スタイルプラス

東海仕事人列伝

「被災地に届ける最後の大漁旗」

2016年3月6日(日) 放送



制作部 伊藤芳人

「スタイルプラス」では、3月に、岩手の漁船の大漁旗製作を請け負ってきた岐阜の「吉田旗店」に密着。店主の吉田稔さんの5年目の決断を取材しました。

岩手県内で唯一、震災を免れた旗店からの依頼を受け、震災翌年から大漁旗作りを請け負ってきた吉田さん。5年がたち、岩手県内の他の旗業者も徐々に復活、そこで、今年限りで請け負うことをやめる決断をしました。「このままだと岩手の業者の仕事をとってしまうことにもなりかねない。復興したとはまだ言えない状況だが、どこかで岩手の業者自身が自立しなければ、復興は進まない」との思いからです。吉田さんの決断は、様々な状況を考慮して導き出した答え。正解も不正解もありません。大事なのは、今行っている支援が本当にベストなのか？ 今できることは何か？ を考えてみるということです。今回の放送は、私自身が、改めて被災地とどう向き合っていくべきかを考えるきっかけとなりました。



吉田旗店の旗づくり

スイッチ!

「東日本大震災から5年 高井一東北へ行く」

2016年3月11日(金) 放送



制作部 向井良太

ピラミッドのように連なる巨大な盛り土。砂ぼこりを巻き上げ走るトラック。岩手県陸前高田市では、地盤を約10mかさ上げし新しい街をつくる工事が進んでいました。

震災から5年目を迎えた今年3月11日、「スイッチ!」では高井アナウンサーが東北を訪れた様子を放送しました。

被災地は、少しずつ少しずつですが、新たな歩みを始めていました。大きなホタテが丸々1個の陸前高田の名物「磯ラーメン」。店は津波で流されましたが、82歳の店主は、復活を望む町の声に後押しされ、再びラーメンを作り始めました。

かつて「陸前高田の迎賓館」と呼ばれたリゾートホテル。津波で全壊しましたが、海沿いから高台に移転し営業を再開させました。結婚式が増えているそうです。

復興はまだまだ道半ば。それでも、一人一人が、それぞれの境遇で前を向いて生きていました。

高井さんは、名古屋に戻り「実際に訪ねて被災地の今を知ることが大切。何をすればいいかが分かる。次の行動が変わると思う。」と話しました。

東北の人は「忘れられることが一番怖い」と口をそろえます。

震災を風化させない――。東海地方の人が被災地に関心を持ち続け、東北へ足を運びたい情報、今後も伝えていきたいと思えます。



岩手県陸前高田市「奇跡の一本松」を見上げる

みんなのニュースOne

大谷主義

「行政マンが見た福島5年」

2016年3月11日(金) 放送



報道部 中務良太

福島第一原発事故で一部が避難区域となっている福島県川俣町、報道部が5年間追いつけている行政マン・宮地勝志さんがいます。震災から半年後、日進市は風評被害を恐れ川俣町で作った花火の打ち上げを中止、この問題を機に宮地さんが派遣されました。そして2年前「自分の目で復興を見届けたい」と宮地さんは日進市を退職、川俣町の職員へ。その思いに惹かれるように毎年川俣町を訪ねています。町は今も放射性物質に汚染された土などの入った黒い袋が置かれたまま。5年経っても、被災地の風景は変わりません。一方で国は除染で放射線量が下がったとして、避難解除を進めようとしています。これで復興終了とするのか、除染ゴミ山積みの故郷に住民は戻るのか？ こうした被災者に寄り添っているのが宮地さんです。被災者の気持ちになって、月日経っても忘れないこと、取材を通じて学んだことです。継続して取材することで見えてきたことです。

また被災地に入ることで、南海トラフ巨大地震にも備えないと改めて気づかされました。その気づきを視聴者の方に少しでも伝えられればと思います。



仮置き場の「汚染土」

公共キャンペーンスポットCM

「震災から3年～伝えつづける～」

第52回ギャラクシー賞 CM部門大賞

2014年5月27日(火) 放送

報道部 土方宏史



報道部ではこれまで5年以上にわたり啓発キャンペーンのCMに取り組んできました。

スタッフは、「テレビ業界」と「広告業界」それぞれの分野から集まった混合メンバーです。最初の1、2年は、先にキャッチコピーを考え、それに当てはまる画を撮りに行くという広告的な手法をとっていました。しかし報道カメラの「とにかく回す」やり方で偶然撮れたシーンが面白いとなり、徐々にリアルの強さを生かすスタイルへと変わっていったのです。

CM「震災から3年～伝えつづける～」では、メディアと震災をテーマに、被災地に入る取材班が被災者とどう向き合うかを撮ろうとだけ決め、現地へ向かいました。辛抱強く回し続けたカメラには、ベテランカメラマンが新人記者を指導しようとして思わず出たつぶやき、被災者から取材陣に投げかけられた視線など、マスコミが抱える苦悩や狡さ・使命感がリアルに映し出されていました。震災の取材班をさらに別のカメラが追いかけるという設定は初めての試みでしたが、普段テレビに映ることのない「カメラのこちら側」をさらけ出すことで、現場の葛藤を視聴者に伝えることができ、我々取材する側にとっても自分たちの姿を見つめなおす良い機会になりました。

この一年でお伝えした東北関連の主なニュース・情報番組 (2015.8～)

ニュース

- 8月20日 震災の実話をミュージカルに(名古屋)
- 10月8日 4年目の秋…格闘王と被災地の約束(岩手県宮古市)
- 12月18日 岩手まるごとおもてなし隊が来社
- 1月8日 被災の陸前高田中学生が憧れの職業体験(名古屋)
- 2月4日 岩手県の観光物産展(名古屋)
- 3月9日 愛知の女子大生が見た被災地(宮城県石巻市)
- 3月10日 ふるさと追われ…仮設住宅の女性(福島市)
- 3月11日 東海地方各地で追悼(中継)
- 5月15日 宮城県女川町の復興を追った映画(名古屋)

報道特別番組

- 3月11日 「災害を見つめ直す～5年目の被災地から～」
15:50～16:50 ローカル放送

情報番組

- 10月24日 『東海テレビ感謝祭』
地元が誇る最高のおススメ紹介しますSP!
東北支援ブース中継&東北物産を視聴者プレゼント
- 10月30日 『スイッチ!』
「いわて純情娘」がスタジオ生出演。岩手の食と観光を紹介、岩手県産「ひとめぼれ」新米を視聴者プレゼント

2. イベントなどでの東北支援の取り組み

東海テレビ感謝祭2015

東北3県物産ブースでの特産物物販

2015年10月24日(土)～25日(日)

営業局 海野仁志

年に1度、東海テレビが視聴者の方々に感謝を込めて開催するイベント「東海テレビ感謝祭」で、今年も東北支援として「東北物産マルシェ」ブースを設けました。昨年同様、岩手県、宮城県、福島県の物産の販売、そして観光PRを行いました。

今回は会場来場者数が前回とほぼ同数の17万人でしたが、東北各ブースの売上は前回は上回りました。岩手県ブースでは、特別番組で紹介した「いちご煮」(ウニとアワビの吸い物)が、番組放送後から売れ出して完売。福島県ブースでも、桃ジュースや喜多方ラーメン、ゆべしなどの売れ行きが良かったとのこと。また、商品の売れ行き以上に嬉しかったのは、来場された方々から「頑張ってるね」など、復興を応援する声だったようです。東北の復興はまだ道半ば。東海テレビとして、応援の気持ちを新たにしました。



東海テレビ感謝祭2015 東北物産ブース



「まだ5年」東北の短い夏に

経営戦略室 野瀬義仁

福島で「相馬野馬追」、宮城で「仙台七夕」、そして岩手は「さんさ踊り」。旧盆を控え、東北が一年で一番華やかその時期に、毎年盛岡を訪れます。内田社長が被災地支援をはじめとした当社の一年の取り組みを岩手県庁、JAへと報告するのに同行しての訪問です。

昨夏に訪問した際、こんな言葉を聞きました。「残念ですが地元でも東日本大震災の記憶が薄れはじめているところもあるんです」。

そして「まだ4年ですが、もう4年でもあるんです…」と。

もちろん被災地の方々には、忘れられないことがある一方で、忘れてしまいたいこともあると思います。でも私たち東海テレビは忘れてはならないことがあります。

8.4

あの日から5年。

2016年夏、再び盛岡へ。

そして被災地へ…



岩手県のJAを訪問した内田社長

東海テレビ福祉文化事業団

東海地方の福祉文化の発展を担い、 震災義援金を被災地へ

東海テレビ福祉文化事業団事務局 相澤一中

社会福祉法人東海テレビ福祉文化事業団は、地域の社会福祉の向上を目的に、開局20周年にあたる1979年、東海テレビが母体となって設立されました。企業・団体や個人からお寄せいただく寄附金を基に、障害者・高齢者・児童の福祉や災害援助など8つの分野で、助成を中心とした活動を展開しています。

37年目にあたる2015年度は、各種イベントへの助成など、71件の事業を実施しました。

このうち、福祉文化事業団の中心的な取り組みである「愛の鈴事業」では、「愛の鈴しあわせキャンペーン」と「愛の鈴 年末助け合い運動」の募金活動を実施。また、東海3県の4つの事業所に対し、軽自動車「愛の鈴号」を寄贈したほか、「東海テレビひまわり賞」では、体のハンディを克服し、社会で自立し頑張っている東海地方在住の4人の方々に顕彰しました。

また東日本大震災の義援金として、内閣府を通じ466万円余りを、被災地に寄託いたしました。義援金は2016年3月までに、合計約3,000件、総額で111,841,513円に上りました。



愛の鈴号の寄贈

第三者意見 I

上智大学文学部新聞学科教授で
当社社外アドバイザーの 音 好宏氏 にご意見をいただきました。



音 好宏氏

上智大学文学部新聞学科教授
北海道札幌市生まれ。
1990年上智大学大学院文学研究科新聞学専攻
博士課程修了。
日本民間放送連盟研究所勤務後、1994年より
上智大学専任講師、
その後、助教授を経て現職。専門はメディア論。

東日本大震災の発災から5年が過ぎた。

5年は、一つの節目である。この3月、東日本大震災関連の多くの番組が編成され、被災地の復興はどこまで進んだのか、被災者・関係者の傷ついた心はどこまで癒されたのかが問われていた。5年前の震災を、そして、その後の被災地の姿を振り返ることは、将来、再び遭遇するかも知れない大規模自然災害への備えにつながることは明らかだ。

翻って東海テレビにおいて、東日本大震災発災から5年目を迎えたと言うことは、とりも直さず、「ぴーかんテレビ不適切テロップ」の事件からも、5年という時間が過ぎたことになる。

5年という年月が経ち、東海テレビ社内には、ぴーかん問題が発生した際に、まだ東海テレビで仕事をしてはいなかった人たちが随分と増えた。その割合は、今後も高まるばかりである。もちろん、あの時のことを経験した人たちにおいても、あの記憶が遠のいていくことは避けられない。

だからこそ、意識的に過去の経験を振り返り、自らの姿を問い直すことが重要だ。今回、再生委員会が答申で提示した東海テレビ関係者を対象にした意識調査「再生の取り組み」アンケートを実施したと聞いている。あれから5年経った姿を、自らが問うことに重要な意味があると考ええる。

この3月、東日本大震災関連の番組制作に関わった東京で仕事をする複数の制作者の方から聞いたのは、「震災ものは、もう視聴率が取れないから」という自虐的とも取れる発言だった。「5年目はあっても、次はないかも知れない」という話もよく耳にした。その意味で東日本大震災報道は、いまの日本のメディアの矜持を計る試金石になっているのかも知れない。

そう考えてみると、2012年以来、東海テレビが毎年8月に「放送倫理を考える全社集会」を開催していることをはじめとして、本冊子に報告されているコンプライアンスに向けた様々な取り組みを行っていることは、率直に評価されるべきものだろう。また、経営トップが、毎年夏に被災地に足を運び続けることは、東海テレビという組織の姿勢を示すことにつながっていると考える。加えて、東海テレビでのさまざまな倫理研修会に、系列の各局担当者が顔を出すことも恒例化しているようだ。コンプライアンスというキーワードで、新たな関係性が生まれつつあると言ってもよいのではなかろうか。他方で、遠のいていく記憶に抗うことは並大抵のことではない。また、未経験のことを想像することも大きなエネルギーがいることだ。最大の課題は、東海テレビを支える一人一人の心の中にあることを忘れてはならない。

地域への貢献

東海テレビでは、ニュース、情報、バラエティ、ドラマなど、多様な番組の放送と各種イベントの開催、災害時のライフラインを担うことで、地域社会の発展に力を注いでまいります。

1. 放送での地域貢献

スイッチ!

～街道をゆく～

“道”と地域の人とのふれあい

月～金曜日 9:50～11:15

制作部 大鹿慎一郎

「はじめまして～街道を歩く～」では東海地方の街道を高井アナが歩き続けてきました。

東海道、中山道を踏破しました。現在は伊勢神宮を目指して佐屋街道を経て伊勢街道を歩いています。

高井アナの一人歩きながらのつぶやきを通して地域の宝である街道や宿場町の良さを再発見したり、地域の方々とのふれあい、その道がいかに大事なものなのかを描いてきました。

このコーナーのロケに同行すると「そろそろくと思っていたよ」「いつも見ているよ」と温かい声をかけていただけます。また、おらが町の良さを発信したいと「是非立ち寄って」とお誘いのメールやお葉書もたくさん頂戴します。

オーバーでなく淡々と地域の良さを伝える高井アナ。徐々にお住まいの地域に近づいていく期待感。ここにこのコーナーの良さがあると思います。

「地道に、淡々と、わかりやすく」このコンセプトを堅持することで放送を楽しんでいただくだけでなく、「参加したい、紹介してほしい」と思っただけのような番組にすることが一番の地域貢献になるのではないかとこのコーナーを担当して強く感じています。



祭人魂

伝統を守り、後世に引き継ぐ

毎週土曜日 11:25～11:40



制作局 田中健一郎

「祭人魂」は、一人の主人公を通じて、祭りそのものの魅力だけでなく、世代を超えた人々の絆や祭りが息づくその土地の空気までも描き出します。

伝統を守り続ける、あるいはこれから伝統を作り上げていく…。放送してきたどの回も印象深く、人々の営みには教えられることばかりで、そんな中で私たちが貢献できていることがあるとすれば、こんなに嬉しいことはありません。

取材させていただいた方の放送後の言葉をいくつかご紹介します。「自分たちの祭りの魅力を再認識し、地元がもっと好きになった」「子どもたちが興味を持ってくれるようになった」「次代へつないでいく気持ちがより強くなった」

通り過ぎるだけの取材者ではなく、後々も関わりを続けている制作者がいます。番組と地域の草の根交流、小さな結びつきが集まって大きな宝物になるようとしています。



岐阜県中津川市 水無神社秋季例大祭

災害時の放送に備えて

「スイッチ!」では、6月3日(金)「生放送中の地震対応確認」として、報道部と合同で生放送中に地震が発生した際の対応訓練を実施しました。発災時のスタジオでの放送対応手順、スタジオの安全確保、停電時の状況確認及び処置、震度図や津波情報の送出手法などを確認しました。主に、発災から報道特番体制に引き継ぐ間の「初動」の動きをメインにシミュレートしました。

電源がダウンした場合、「無停電電源装置」(UPS)が作動するものの、非常用電源が始動するまでの間は、かなり電力を制限

された中で放送を継続することが極めて重要となります。

スタジオの照明が暗くなり、副調整室もメインのモニターだけが稼働する状況の中、何を撮り何を伝えれば最も視聴者にとって有益な災害情報となるのか…。それを念頭に、各スタッフが、制限された状況の中で如何に冷静に対応することができるかが問われる上で意義のある訓練でした。この訓練には、制作部や報道部だけでなく技術関係の従業員やスタッフ、スポーツ部などの番組制作部門の担当者なども見学し、全社的に関心のあるものとなりました。

今回の訓練をふまえ、現状の「災害発生時の放送マニュアル」を改訂する予定です。「スイッチ!」「スタイルプラス」ともに、地域密着の生放送番組として災害時等のライフラインとしての自覚を有し、円滑に放送対応すべく備えています。



「スイッチ!」の訓練の様子

みんなのニュースOne
 災害報道をどう伝え、災害時いかに
 地域のライフラインになりうるか



月～金曜日16:49～19:00

報道部 柳瀬良太

「まさか地震が起きるとは思わなかった」「まさか噴火が起きるとは思わなかった」

2016年の熊本地震、2014年に起きた御嶽山の噴火、2つの災害報道の現場で取材対象者から言われた言葉が今も私の胸に響いています。

我々は災害時のライフラインとしての報道はもちろん、常日頃から視聴者に災害に対する警戒を呼びかけなければいけません。改めて、災害に対する備えや注意喚起を伝え続けることの重要性を感じました。

東海地方に来ると言われている南海トラフ地震は、自治体などの備えは充実していますが、視聴者への呼びかけがそこまでできているかと言われれば、前述のような言葉が返ってくる可能性も大いにあります。確かに、日常の際の放送では視聴率もあまりとれないことから災害への備えは興味・関心も薄いと思いがちですが、それは我々の視聴者への伝え方に問題があるのかもしれません。改めて、地震や災害に備えるための報道の在り方ということを考えなければいけません。そして、地震が起きた際に一人でも多くの命が救えるように、日々伝えつづけることが、災害報道を行う上で一番重要だということを、改めて徹底したいと思います。



『ドラHOT+ スペシャル
 ～中日ドラゴンズ80年の軌跡～』
 地域球団・中日ドラゴンズと歩んだプロ野球中継



毎週土曜日11:40～11:45

スポーツ部 萬浪鉄平

今年4月にスタートした「ドラHOT+スペシャル 中日ドラゴンズ80年の軌跡」。

中日ドラゴンズの誕生から今年で80年。9度のリーグ優勝と2回の日本一に輝き、記録だけではなく、東海地方の方々の記憶に残る選手や試合が数多く生まれました。

そんな地元で愛されるドラゴンズの歴史を、80年という節目の年に紹介するため、この番組は始まりました。番組ナビゲーターは、ドラゴンズ球団外広報でもあり、「ドラHOT+」MCの峰竜太さん。ナレーションは、ドラゴンズOB会長の鈴木孝政さんです。ドラゴンズが盛り上がれば、東海地方も盛り上がる!!

日頃の取材と懐かしの映像を通し、ドラゴンズと視聴者の距離をより一層近づけていきたいと思っています。もちろん、オールドファンには懐かしい、新たなファンにも楽しんで頂ける、そんな番組作りを心がけています。

「フォークの神様・杉下茂」「伝説の投手・権藤博」「10.8 決戦」「レジェンド山本昌」などの過去の映像と、ドラゴンズOBや現役選手のインタビューを交え、視聴者の皆さんが思わずあの頃を思い出す。そんなきっかけを作れることができればと思います。



番組ナビゲーターの峰竜太さん



フォークの神様・杉下茂

2. イベントでの地域貢献

愛知万博メモリアル

第10回愛知県市町村対抗駅伝競走大会(愛知駅伝)

2015年12月5日(土) 開催

愛・地球博記念公園(愛知・長久手市)

事業部 松鷹裕介

「愛知駅伝」がスタートしてから10年がたち、その大きな成果のひとつとも言える嬉しいニュースがありました。1月に開催された全国都道府県対抗駅伝大会で、愛知県がアベック優勝の快挙を成し遂げたことです。しかもその登録メンバーのほとんどが「愛知駅伝」を過去に経験したことのある選手でした。

「愛知駅伝」は、2005年に開催された愛知万博の成果を次世代に語り継ぐとともに、県内市町村の交流やスポーツの振興などを目的に2006年から始まりました。市町村の代表チームは、小学生から40歳以上までの幅広い年齢層の男女で構成されます。

この大会の開催が、愛知の陸上界の裾野の広がりや、市町村

単位での選手の発掘、強化に多少なりとも貢献しているとするれば、大変幸いです。

今後も、大会の開催が地域にとって意義のあるものとなるよう、さらに努めていきたいと考えています。



第10回 愛知駅伝

3. 社会貢献活動

地域への社会貢献活動の一環として、社内見学や出張授業などを開催。

放送局を知ってもらい、身近な存在でありたいと思います。

I. 社内見学

▶ 2015年7月29日(水) 椋山女学園中学校 放送部

ニュース番組の制作現場を見学しました。

▶ 2016年2月8日(月) 三重大学留学生

『スイッチ!』のスタジオセット、ニュースの制作現場などを見学しました。

▶ 2016年6月30日(木) 豊橋市立東陵中学校2年生

『スイッチ!』の制作現場を見学しました。



椋山女学園中学校 放送部のみなさん

2016年 6月から社内見学のグループを一般に公募しています。

放送局、東海テレビをよく知ってもらうため、小中学生、高校生のグループを募集しています。

応募の詳細はホームページをご覧ください。

<http://tokai-tv.com/csr/chiiki/tour.html>

II. 出張授業

専門性を持った東海テレビのスタッフが地域や教育の現場を訪問し、自らの経験や技術に基づき解説します。

▶ 2015年7月4日(土) 名古屋大学大学院

『ドキュメンタリーの作り方』

講師：齊藤潤一 報道部長

数々のドキュメンタリー番組やドキュメンタリー映画の演出を手がけた経験を基に、制作の手順や心構えを説明しました。

▶ 2015年9月10日(木) 愛知教育大学

『コミュニケーションの取り方』

講師：庄野俊哉 アナウンサー

教員を目指す学生に、スムーズなコミュニケーションの取り方を説明しました。

▶ 2015年11月27日(金) 三重大学

『メディアと日本』 特別講義

講師：齊藤潤一 報道部長

東海テレビ制作のドキュメンタリードラマ「約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯」を基に、事件の経緯や裁判の歴史、ドキュメンタリーの作り方、日々のニュースとの違いについて講義しました。



齊藤報道部長 講義(三重大学)

▶ 2015年12月25日(金) 岐阜女子大学

『テレビの仕事』

講師: 伊藤真保 制作部プロデューサー

民間放送の成り立ちや番組制作の手順、また女性の立場でテレビの仕事に取り組む姿勢などを説明しました。



伊藤プロデューサー 講義(岐阜女子大学)

▶ 2016年5月11日(水) 福井大学附属中学校 2年生

『ドキュメンタリー制作』

講師: 鈴木辰明 報道部ディレクター

講師が制作したドキュメンタリー番組「熱中コマ大戦」を題材に、番組制作のポイントを説明しました。



鈴木ディレクター 講義(福井大学附属中学校)

▶ 2016年4月~7月(全15回) 名古屋大学大学院

『民間放送論』 講座

2006年から毎年、メディアプロフェッショナルコースにて、各部署(報道、制作、技術、営業、考査など)の従業員が交代で講義を行い、テレビ局の仕事内容、ローカル局の役割などについてともに考えています。

III. アナウンサーによる地域貢献活動

▶ 中日新聞記者とアナウンサーとのコラボレーショントーク

2015年8月9日、イオンモール大高にて、東海テレビの浦口史帆アナウンサーと中日新聞社会部記者が、テレビや新聞の取材の裏側、災害報道への備え等を話し合いました。



中日新聞・東海テレビトークショー

▶ 中日新聞『くらしの作文』音読

2015年10月より、中日新聞生活面掲載の『くらしの作文』を東海テレビの庄野俊哉アナウンサーが朗読し、音声を東海テレビホームページで毎日公開しています。音声に倣って実際に声を出して読むことにより、脳の活性化に役立てていただいています。

<http://tokai-tv.com/announcer/ondoku/>



IV. その他

フジテレビが系列各局とコラボレーションして、食育をテーマに展開する紙芝居と体操のイベント『ハロー! どっこくん。』にも東海テレビが協力し、アナウンサー、当社マスコットキャラクター『わんだほ』が出演しています。

▶ 2015年10月23日(金) 岐阜県関ヶ原町

町立関ヶ原小学校附属幼稚園

▶ 2016年 2月23日(火) 三重県松阪市

さくら保育園、松阪仏教愛護園

▶ 2016年 6月16日(木) 愛知県一宮市 市立浅野保育園

皆様のご意見を番組づくりに

東海テレビでは、視聴者の皆様、社外モニター、番組審議会などを通じ、様々なご意見をいただいています。こうしたご意見をより良い番組づくりに活かしています。

視聴者対応

「番組への感想」「放送スケジュールの問合せ」「字幕の間違いの指摘」「出演者への応援」…視聴者の皆さんからお寄せいただくご意見は番組審議室の視聴者対応でお伺いしています。平成27年度の対応件数はメール18,790件、電話や文書など11,695件で、合計 30,485件となりました。意見は番組別に「要望」「問合せ」「苦情」などに分類、さらに「週報」や「月報」にまとめて役員・従業員・系列局にフィードバックしています。また協力会社の皆さんの目に留まるよう社内でも掲示しています。メッセージからは番組に対する喜怒哀楽がストレートに伝わってきます。ご意見を受け取る際、大事にしているのはメッセージの“温度感”。熱を損なうことのないよう正しく受け取り、伝えていきたいと思えます。



視聴者月報

番組審議会

番組審議会は放送法に基づき、すべての放送局に設置が義務付けられている第三者機関です。東海テレビでは、この地方で活躍する各界の有識者10人に委員を委嘱し、8月を除く毎月、審議会を開催し意見をいただいています。平成27年度はドキュメンタリー4番組、バラエティー5番組、ドラマ1番組、ニュース1番組を審議番組に指定、局側からは番組制作担当者も出席し、自由闊達な意見交換が行われています。



番組審議会

社外モニター

東海テレビでは、この地方に住む10人の視聴者の皆さんに「社外モニター」をお願いしています。任期は6か月、毎月4～5本の指定番組を視聴してもらい、さまざまな角度から評価していただいています。視聴番組ごとに提出いただく「モニターレポート」にはお褒めの言葉から辛口コメントまで、次の番組作りのヒントになるコメントがたくさん散りばめられています。任期終了時には東海テレビの担当者との懇談会を実施し、6か月間のモニターの仕事を振り返るとともに、今後に向けた提言をいただきました。



平成27年度下期社外モニター懇談会

平成27年度下期社外モニターの皆さんの『東海テレビ・テレビ全般に望むこと』

- 家族で見ることができて、考え合うことができる番組を作り続けてほしい。
- すぐ叩かれてしまうような社会の中で、テレビも萎縮しつまらなくなっているの、視聴者が共感できるような番組を作ってもらえるよう頑張ってもらいたい。
- 東海地方の地元の人にスポットを当てる番組を制作するなど、この地域らしさを強く押し出してほしい。
- 双方向をうまく利用できるテレビももっとおもしろくなる。
- 良質なドキュメンタリーなどしっかりした番組を制作すると同時に、くださったバラエティ番組を作るバランスがあつてこそ楽しいテレビだと思えるのではないかな。

視聴者対応番組

東海テレビでは視聴者の皆さんからの問い合わせやご意見にお答えする番組「メッセージ1」を放送しています。番組ではこのほかにも、番組審議会の議事概要、東海テレビが実施している社内見学や、出張授業など社会貢献活動などについても報告しています。「メッセージ1」は毎月第4日曜日午前6時15分から放送しています（※放送日時変更の場合もあり）。

第三者意見Ⅱ

「びーかん問題」から5年です。東海テレビがこの間でどのように歩んできたか。第三者機関「オンブズ東海」の委員のみなさんからご意見をいただきました。



神尾 隆 委員長
NPO法人「ささえあい」理事長

「いつか、証言をしてくれる被爆者の声を聴くことができなくなる日が来る。しかし、1945年8月6日朝の記憶は絶対に消えてはならない。この記憶によって我々は独りよがりではいられなくなる。道徳的な想像力がかき立てられ、変わることができるようになる。…そして運命の日から、我々は希望ある選択をしてきた。」この言葉は去る、5月27日、アメリカのオバマ大統領が広島を訪れ、原爆慰霊碑へ献花された時のメッセージである。東海テレビは2011年8月4日「びーかんテレビ」で放送した、不適切テロップで開局以来、長年積み重ねてきた信頼を一気に失うことに

なったことは、今も記憶に鮮明に残る。以来、「番組で失った信頼は番組で取り戻す」「この重大な過ちを決して風化させない」との不退転の決意のもと、毎年8月4日を「放送倫理を考える日」と制定し、コンプライアンス意識の浸透に向け、全社集会や研修会を実施してきている。私もオンブズ東海の委員長として各集会・研修会に参加させていただき、熱意にあふれた真摯な取り組みに新生・東海テレビの姿を実感している。2011年8月4日の記憶を決して消すことなく、風化させることなく持ち続けていただきたい。『継続は力なり』が私の信念である。



橋本 修三 委員
弁護士

2011年8月4日のあの事件から5年が経った。放送倫理検証委員会の提言を再度読み直してみた。委員からは、ドキュメンタリー番組を意欲的に放送し、高い評価を得てきた「あの東海テレビが」という声もあったという。しかし、その評価が一瞬にして壊れてしまう怖さを、皆さんはあの事件で身をもって体験した。最近になって、ようやく世間からはあの事件について語られることは少なくなった。これも、皆さんが当事者意識を持って再生への取組みを進めてきた結果であり、東海テレビは以前のように再び評価を得つつあると言ってよいと思う。

提言は、①全社レベルで放送の使命について話し合うこと、②必要な人員と時間が確保される環境での制作、③意見交換・問題提起が行われるような職場環境整備、④実りある研修の継続を求めている。いずれも常に持ち続けなければならない極めて重要な課題である。放送倫理を考える日にあたって改めてこの提言を深く心に刻み込んでもらいたい。あれからもう5年が経った。しかし、皆さんにとってはまだ5年なのだ。引き続き皆さんの取組みに期待したい。



東 珠実 委員
椋山女学園大学
現代マネジメント学部 教授

今年1月より、「オンブズ東海」の委員を務めさせてさせていただくことになった。委員としては短いキャリアであるが、この間、東海テレビ放送の放送倫理や企業倫理に関する徹底した取組みについて多くを知る機会を得ている。2011年8月の不適切テロップ問題には、一視聴者の立場から大いに衝撃を受けた。すでに5年が経過するなかで、問題を風化させることなく、これを教訓に全社を挙げて一層のコンプライアンス経営に邁進する姿勢は、一定の評価に値するものである。しかし、現状に甘んじることなく、更なる社会的信頼を獲得するよう不断の努力を重ねていただきたい。

テレビ放送を取り巻く環境は、常に変化し続けている。それに伴い、放送倫理においても一層きめ細かな配慮や柔軟な対応が必要となっている。とりわけ、近年のSNSの発達は、視聴者の番組への参加や評価、その拡散を容易にするとともに、他方で、番組づくりに携わる一人一人に対し、情報管理をめぐる、より高い倫理観を求めることになった。今後も、全社員の強いメンバーシップの下、放送文化の創造と放送倫理の向上を目指し、自浄機能をもちながらチャレンジを続ける組織風土が一層深化・発展することに期待したい。

この1年の主な取り組み

2015年

- 7月 放送倫理を考える月間
- 7月28日 第8回コンプライアンス委員会
- 8月 4日 放送倫理を考える全社集会
平成27年度上期放送人研修会
講師：慶應義塾大学 鈴木秀美教授
- 8月 7日 内田社長 岩手訪問(～8日：宮城県内被災地訪問)
- 8月24日 第8回コンプライアンス責任者会議
- 9月 1日 「オンブズ東海」第15回委員会
- 9月17日 平成27年日本民間放送連盟賞
【番組部門(テレビ)】報道番組
「ヤクザと憲法～暴力団対策法から20年～」優秀賞
【CM部門(テレビ)】
「公共キャンペーン／戦争を考えつづける」優秀賞
「鳥羽水族館／猫2匹入りました」優秀賞
- 10月24日 東海テレビ感謝祭(～25日 来場者約17万人)
- 10月28日 ACCフィルム部門Aカテゴリー
自社キャンペーンスポット「戦争を、考えつづける」総務大臣賞／ACCグランプリ
- 11月24日 第9回コンプライアンス責任者会議
- 12月 1日 「オンブズ東海」第16回委員会
- 12月 2日 社内下請法研修会(～9日 計8回 約50名参加)

2016年

- 1月27日 東海放送会館 下請法研修会
- 2月24日 東海テレビプロダクション 下請法研修会(3月4日 計2回)
- 2月25日 平成27年度下期放送人研修会
- 3月 3日 第10回コンプライアンス責任者会議
- 3月 7日 第9回コンプライアンス委員会
- 3月14日 「オンブズ東海」第17回委員会
- 3月17日 東海テレビ事業 下請法研修会
- 5月23日 第53回ギャラクシー賞
【テレビ部門】
「人生フルーツ ある建築家と雑木林のものがたり」選奨
【CM部門】
「公共キャンペーン・スポット『戦争を、考えつづける』」選奨
- 6月 3日 第11回コンプライアンス責任者会議
- 6月 7日 第42回放送文化基金賞 テレビエンターテインメント
「人生フルーツ ある建築家と雑木林のものがたり」最優秀賞
- 6月14日 「オンブズ東海」第18回委員会

おわりに

「東海テレビこの1年の取り組み2016」を最後までご覧いただきありがとうございました。「びーかん問題」から、放送倫理の向上や社会貢献など様々な取り組みを積み重ね5年がたちました。この間、放送やイベントなどを通じて地域への還元、岩手県など東日本大震災の復興支援に努めてまいりました。これからも信頼を取り戻すよう一層努力し、さらに多くの良質なコンテンツを皆様に提供してまいります。

コンプライアンス宣言

東海テレビ放送は、放送事業の高い公共性や社会的使命を常に自覚しながら、企業倫理を守り地域社会に貢献することを目指します。
役員および従業員は地域の皆様からの厚い信頼と支持を得るため、諸法令や社会規範を遵守するコンプライアンス経営を推進します。

コンプライアンス行動基準(抜粋)

私たち役員および従業員は、放送活動をはじめ企業活動を行う上で、すべての法令を誠実に遵守するとともに、社会良識をもって次のとおり行動します。

1. 放送メディアとしての責任を自覚し、高い倫理観を持って法令や社会規範を厳格に遵守します
2. 企業活動を通じて文化の発展、福祉の向上、環境保全などの社会貢献に努めます
3. 言論と表現の自由を守り、公正かつ中立な報道をするとともに、社会生活に役立つ番組やイベントなどを提供します
4. 社会良識に基づいた適正な取引きを行い、健全な企業活動を推進します
5. 経営の透明性を確保するため、当社が保有する情報は適正に管理し、企業情報を社内外に公正に開示します
6. 従業員の個性、人格を尊重し、その能力、活力が十分発揮できるよう安全で明るい職場環境づくりを行います

◎お問い合わせ先

東海テレビ放送株式会社 コンプライアンス推進部

〒461-8501 愛知県名古屋市東区東桜一丁目14番27号

Tel. 052-951-2511(代表) ホームページ <http://tokai-tv.com/>

東海テレビ放送株式会社

